

【農業農村整備事業（県事業） 再評価審議資料】（農地整備課）

- 再評価実施箇所一覧表 . . . p. 1
- 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について . . . p. 3
- 再評価実施箇所（附図） . . . p. 5
- 説明資料（パワーポイント）
 - 7) 県営湛水防除事業
「鵜森三郷」 . . . p. 7

令和4年度 再評価対象箇所一覧表 10月12日審議箇所

[農政部 農地整備課]

番号	事業名 (補助/交付金/ 県庫)	路線・地区・ 河川名等	実施箇所 (市町村名)	採択 年度	完了 予定 年度	事業概要		全体事業費 (百万円)		実施済み額 (百万円)		進捗率 (%)		経過年数 (R4.3現在)	政策との 位置付け	関連事業の進 捗状況	社会経済情勢 等の変化及び 地元の意向	環境との調 和への配慮 事項	事業費縮減	費用対効 果分析	対応方針 (案)	特記事項
						全体事業量	実施済事業量	事業 実施率	用地補償費	工事費等	用地補償費	工事費等	用地補償費									
7	県営湛水 防除事業 (補助)	織森三郷 地区	大垣市	H24	R13	排水機場工 1式 排水路工 L=1,398m	排水路工 L=1,225m	3,459	17	1,059	7	30.6%	41.2%	10	『さか、農業・農村基 本計画』の基本方 針「地域発進型活 かした農村づくり」 の重点施策「災害 に強い農村づくり」	国土交通省木曾川 上流特定構造物改 築事業(新水門川 R15)においてR3事 業着手 (R3用地買収、 R4用地買収、仮 設工等)	大垣市、受益農家 とも、早期完了を 強く要望している	工事施工時に おける近隣住民 への騒音・騒音 対策を実施	工事の計画・設 計の見直し	投資効果 3.80	継 続	

費用対効果分析:()は前回再評価時の投資効果率

令和 4 年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 農地整備課

○ 事業制度について	事業名	県営湛水防除事業（農村地域防災減災事業）
	事業目的	・低平地等において農作物の湛水被害が予想される地域を対象に、被害を未然に防止するために農業用排水機場、排水路の整備などを実施
	採択基準	・受益面積 おおむね30ha以上であること（小規模） ・総事業費 50,000千円以上であること（小規模） ・受益面積の50%以上が農用地であること ・農業効果 50%以上であること
	概要 (メニュー)	・農業用排水機場等の整備
○ 費用対効果の分析について	効果の項目 うち貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> ・食料の安定供給の確保に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> ①維持管理費節減効果 ・農業の持続的発展に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> ②災害防止効果（農業関係資産） ・農村の振興に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> ③災害防止効果（一般資産） ・多面的機能の発揮に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> ④災害防止効果（公共資産） <p>⑤ 年総効果額 = ①+②+③+④ ⑥ 評価期間：当該事業工事期間+40年 ⑦ 割引率：4% ⑧ 総便益 = $\sum (⑤ \div (1+⑦)^{⑥})$</p>
	その他項目	—
* 費用便益 B/C *	費用 ≪C≫ の算定	⑨ 総費用 = ⑩+⑪ ⑩ 当該事業による費用 ⑪ その他費用（関連事業費+資産価額+再整備費）
	費用便益比の基準	費用便益比 (B/C) ≥ 1.0 総費用総便益比 = 総便益 (⑧) \div 総費用 (⑨)

※ H20以降に計画策定（新規、変更）した地区については、「新たな効果算定マニュアル」により総費用総便益比（評価期間（当該事業期間+40年）の間で必要な投下費用（総費用）とそれによって発現する総便益を対比）にて算定。

令和4年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔農地整備課〕

番号	7	事業名 (路線・河川名等)	県営湛水防除事業 <small>うのもりさんごう</small> (鶉森三郷地区)	
事業実施箇所	大垣市横曽根町地内		事業主体	岐阜県
採択年度	平成24年度	完了予定年度	令和13年度	
再評価の実施基準	事業採択後10年間が経過した時点で継続中の事業			
事業目的	<p>本地区は大垣市の南部に位置している低湿地帯であり、地区内排水は鶉森三郷排水機場により行われているが、地区内の開発による流出量の増加、地盤沈下及び老朽化による排水能力の不足に加え、鶉森三郷排水路の老朽化が進んでいる。</p> <p>このため、排水機場及び排水路の改修整備を行い、湛水被害の発生の未然防止、農業生産性の維持及び農業経営の安定を図る。</p>			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 排水機場工 1式 排水ポンプφ900×4台、水槽1式、建屋1棟、除塵機2基 排水路工 L=1,398m 			
概要図				

再評価 県営湛水防除事業 うのもりさんごう 鵜森三郷地区



機場全景



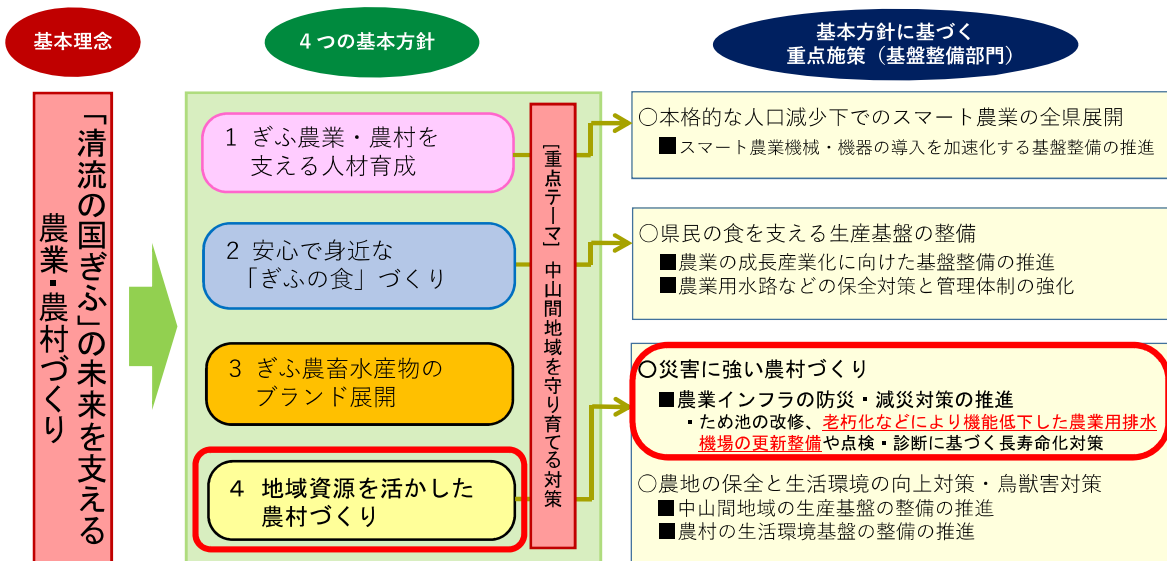
既設ポンプ

農政部 農地整備課

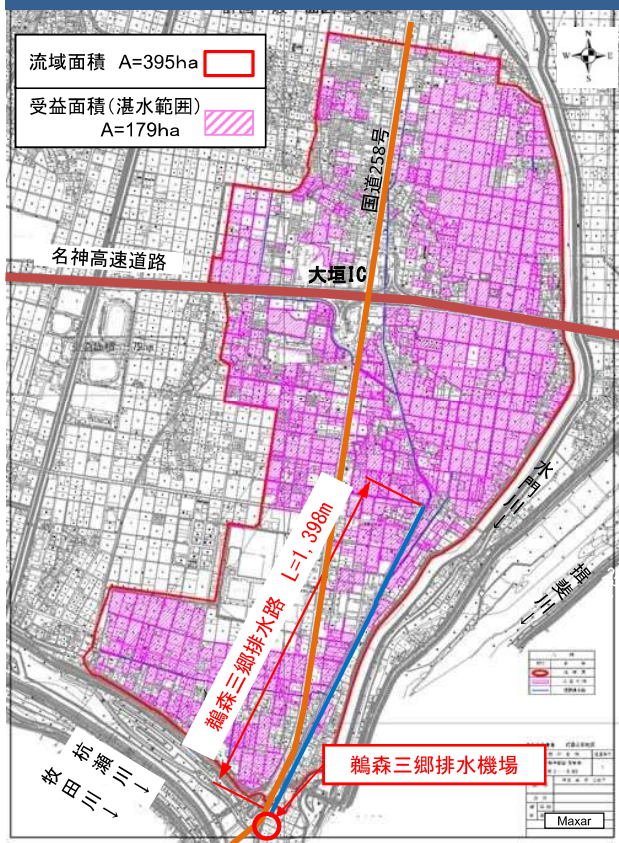


農業農村整備事業（湛水防除事業）の政策との位置付け

「ぎふ農業・農村基本計画（R3年3月策定）」の基本方針【地域資源を活かした農村づくり】の重点施策である「災害に強い農村づくり」を実現するための事業展開を図る。



位置図



3

事業概要

事業地区名 (市町村名)	県営湛水防除事業 鵜森三郷地区 (大垣市)
地区の概要	本地区の排水は鵜森三郷排水機場により行われているが、立地条件の変化や施設の老朽化による排水能力の低下のため、近年、頻発する集中豪雨時には農地等の湛水が発生している。
全体事業費	3,459百万円 (負担割合 国 55% : 県 35% : 市 10%)
受益面積 (湛水面積)	179ha (田 140ha、畑 6ha、その他 33ha)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 排水機場工 1式 排水ポンプφ900×4台、水槽1式、建屋1棟、除塵機2基 排水路工 L=1, 398m
事業期間	平成24年度～令和13年度
令和3年度までの進捗率	事業費ベース 30.6%

4

事業の目的

低平地等において農作物の湛水被害が予想される地域を対象に、被害を未然に防止するために農業用排水機場、排水路の整備を実施

平成25年9月(集中豪雨)湛水状況



大高理工株式会社

5

事業効果

○排水機場整備による湛水時間等の変化

<3日連続雨量(20年確率)におけるシミュレーション結果>

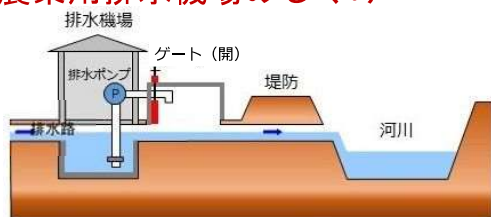
<現況>	<機場更新後>
水田の湛水継続時間*1 29時間	11時間*2 (△18時間)
農地等の最大湛水面積 179ha	88ha (△91ha)

<整備基準等>

※1 湛水継続時間とは、計画降雨時に水田が30cm以上湛水する時間

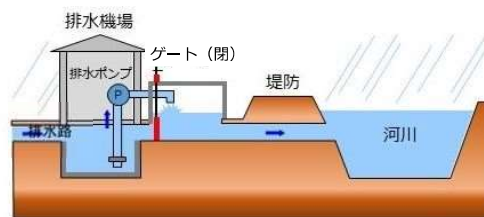
※2 3日連続雨量(20年確率)において、水田の深さ30cm以上の湛水が24時間以内

○農業用排水機場のしくみ



【平常時】

農地からの排水は排水路を通じて河川に自然流下



【洪水時】

河川水位が排水路より高くなると農地の湛水被害を防止するため、ゲートを閉め、ポンプで排水

6

費用対効果分析

1) 事業の効果項目

災害防止効果（農業関係資産） 効果全体の約10%

農作物、農地、農業用施設等の被害が防止される効果

災害防止効果（一般関係資産等） 効果全体の約90%

一般住宅、事業所等の被害が防止される効果

受益面積 179ha (内訳 田・畑 146ha(82%)
宅地等 33ha(18%))

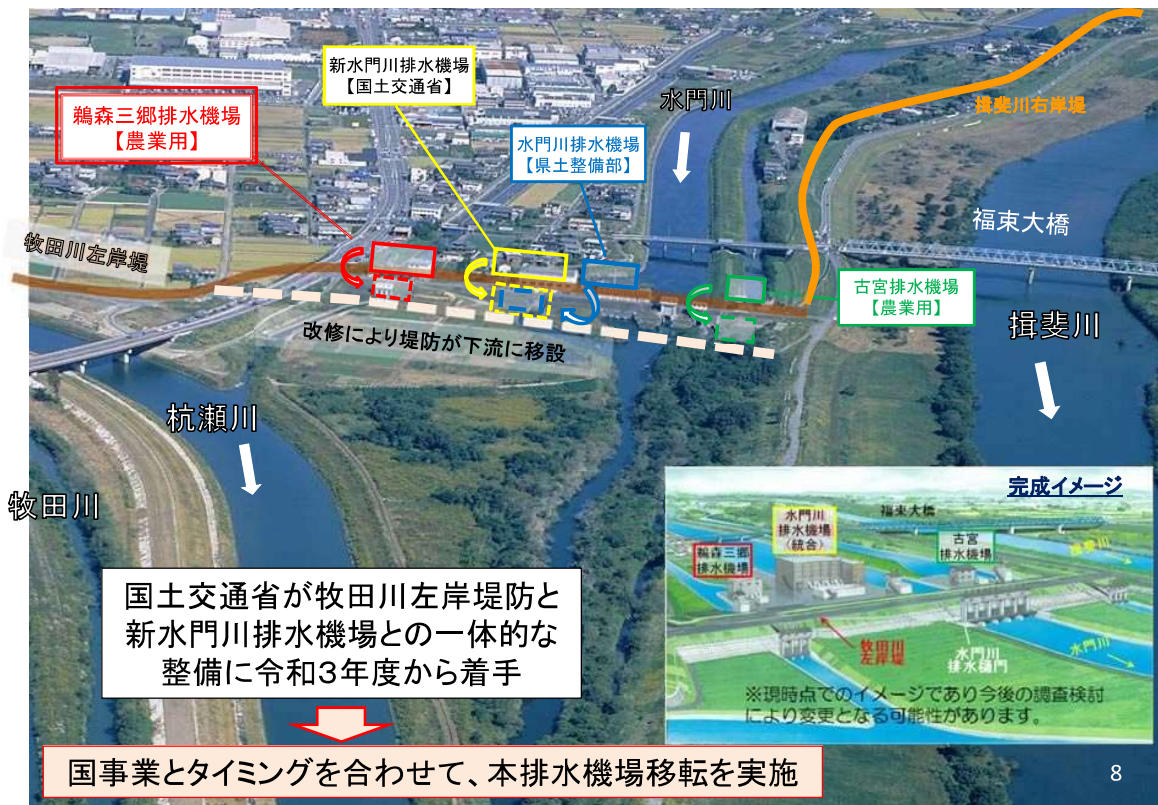
2) 投資的効果率

総便益／総費用=3.80

当初計画時 (H24)
3.17

7

事業を巡る社会情勢等の変化

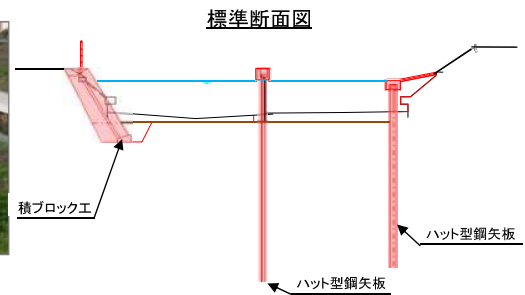


8

事業の進捗状況

排水路工

全体延長 1,398m 施工済 1,225m (R3までの進捗率87.6%)



排水機場工

国土交通省の堤防改修事業との調整により、令和4年度から排水機場工事に着手し、令和13年度完成予定

今後のスケジュール（予定）

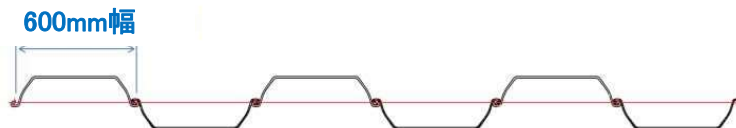


9

コスト縮減

ハット型鋼矢板工法の採用

(従来)
広幅鋼矢板



(今回採用)
ハット型鋼矢板



- 断面寸法の改良により、鋼矢板重量が軽減し材料費が縮減。
- 従来製品と比較し、有効幅が900mmに拡幅されているため、使用枚数が2/3に減少し、施工手間が縮減。



5千3百万円のコスト縮減(約6%の減、施工延長2,291m)

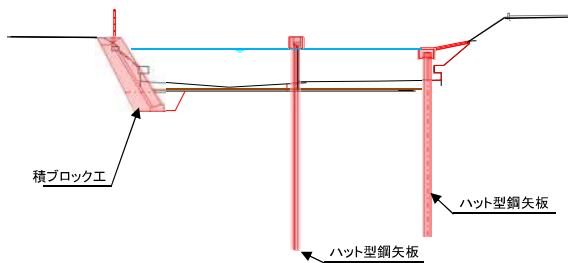
10

環境への配慮

鶉森三郷排水路(施工後)



標準断面図



<周辺家屋等への配慮>

- ・無振動、無騒音の油圧式圧入工法の採用
- ・鋼矢板施工時の振動・騒音測定



11

対応方針(案)

- ・近年、集中豪雨が頻発していることから、本事業の緊急性は高く、地域住民及び受益農家からの期待は高く、大垣市も早期完成を望んでいる。
- ・国土交通省・大垣市と連携し、牧田川左岸堤防の一体的な整備に取り組んでいる。



「継続」して事業を実施する。

12

令和4年度
岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料

■事業名

県営湛水防除事業 鶺森三郷地区

■事業内容

- ・排水機場工 1式
排水ポンプφ900×4台、水槽1式、建屋1棟、除塵機2基
- ・排水路工 L=1,398m

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H23)	(基準年：R4)	
事業期間		H24～H30	H24～R13	
費用 (億円)	事業費	12.3	36.0	
	関連事業費	40.0	65.5	
	合計(C)	52.3	101.5	
効果 (億円)	維持管理費節減効果	△ 3.6	△ 12.1	
	災害防止効果(農業関係資産)	25.0	36.7	
	災害防止効果(一般資産)	141.6	357.0	
	災害防止効果(公共資産)	3.1	4.2	
	合計(B)	166.1	385.8	
費用対効果分析結果(B/C)		3.2	3.8	

※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

- ・土地改良事業の費用対効果分析マニュアル／農水省農村振興局/H19.3

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用の主な変化要因】

- ・堤防移転に伴う排水機場の位置変更及び排水路の構造見直しにより事業費が増加した。
- ・評価基準年の見直しにより、現在価値化した事業費が増加した。【49億円】

【便益の主な変化要因】

- ・評価基準年の見直し及び令和2年4月の治水経済調査マニュアルの改訂に基づく各項目の見直しに伴う増により、現在価値化した便益が増加した。【220億円】

【費用対効果分析結果の変化】

- ・費用対効果分析結果は、前回の3.2から3.8へと変動しており、費用便益比は1.0を上回っているため、十分な事業効果が確保される見通しである。